

人生一度きり

山口県をデザインする、と題して色々と活動している松永秀夫、38歳。

今の今に至るまで、何一つ不自由な思いをすることなく生きてこれたことを、公務員だった両親によつやく感謝できる年齢になってきた。

山口県をデザインする、と題して色々と活動している松永秀夫、38歳。今の今に至るまで、何一つ不自由な思いをすることなく生きてこれたことを、公務員だった両親によつやく感謝できる年齢になってきた。

社長になりたい

そんな私が会社経営をしてみたいと最初に思ったのは小学生、9歳の時だった。アイツの家は父親が社長だからスゴイぜ、とか言われている友人たちの家に遊びに行ってみると、広い家に、いかにもお金持ちの家でしかお目にかかれないような犬がいたりしたことには衝撃を受けて、それなら俺も会社を立てて社長になりたいと、子どもながら



業を目前に就職活動をしている自分に、ふと問い質した。会社を立てて経営者になりたいって思っていたあの気持ち、あれは何処に？って。ただ、一度社会に出て、ビジネス

まだ見ぬ己と出会う旅

松永 秀夫

モトクロス代表



スマンとしての経験を積んだうえで起業する方が良くと自分自身に言い聞かせ、25歳の春に就職し

企業や店舗の広告戦略、ブランド戦略をお手伝いする会社、株式会社「モトクロス」を設立。自らブログやフェイスブック、ツイッターなどの各種インターネットサービス（ソーシャルメディア）を積極的かつ戦略的に活用することで多大なる効果を獲得している。

た。趣味は出会い。とにかく人と接することが大好きな私は、営業は天職とばかりに新規開拓営業マンとしての仕事にのめり込んだ。自分でも納得のいく営業成績を残せたことで、やっぱり俺なら出来るの確信のもと、2006年、32歳の時に起業。

企業や店舗においてインターネットの活用は避けて通ることができない分野。ただヤルだけでは効果を獲得することは難しい。そんな課題や状況を我々のノウハウと技術力で飛躍的に激変させることが出来るこの仕事にとても遣り甲斐を感じている。

全力で挑戦

現在、経営者として様々な会に入会し精力的に活動していて、今年度は山口県倫理法人会において県役員として朝礼委員長を仰せつかっているほか、山口商工会議所青年部では委員長、異業種交流会の大遊会では副会長という役にも任命いただいた。そのような役にふさわしい人間ではないことは自分自身が一番よく知っている。ただ「頼まれことは試されごと」の言葉を胸に、周りに迷惑

を掛けながらも、いま出来ることに全力で取り組み、挑戦し続けている。最後に「人生とは、まだ見ぬ己と出会う旅」。これは私の大好きな言葉。そう、今も旅の真つ只中。

まっなが・ひでお 宇部市出身。1999年に阪南大学を卒業後、富士ゼロックス販売会社へ就職。起業を胸に7年間勤務した後、2006年10月に「モトクロス」を設立した。人と出会うことが趣味で、幅広い人脈を築く。山口商工会議所青年部に所属するほか異業種交流組織の「大遊会」や山口県倫理法人会などでも活動している。38歳。山口市小郡下郷。

次回は松永さんの紹介で、山陽小野田市の中西章さんが担当します。